

合成木材の端材を使ってできた魚道  
—高島市で（積水化学工業滋賀栗東工場提供）



## 自然保護大賞と環境省の特別賞 積水化学工場 ダブル受賞

# 端材で琵琶湖の生物守る

### 栗東

工場から出るガラス繊維製合成木材の端材などを琵琶湖の生物多様性保全に活用してきた「積水化学工業滋賀栗東工場」（栗東市）が今年度、二つの大きな賞に輝いた。日本自然保護協会の「日本自然保護大賞（企業・団体リーダー部門）」と環境省主催の「第3回グッドライファワード」の「環境と企業」特別賞。地域と一体になった継続的な活動が高く評価された。【北出昭】

### 地域と一体活動評価

栗東工場は、合成木材を作るためには電気材や塩化ビニールの代などのコストがかかパイプなどを製造。このうえ、需給の関係なれまで成形の過程で、ごで廃棄せざるをえない出る端材は破碎し、リサイクルして使ってくる。このため、工場は

一方、リサイクル製

材の有効活用を検討。魚が田んぼや排水

路を自由に行き来できるようにする県の事業「魚のゆりかご水田つくり」に利用することを思いついた。

更には、端材の提供を甲賀市小佐治地区やたかしま有機農法研究会（高島市）などにも拡大。工場から出る古紙や段ボールを環境団体に無償で譲り、売却益を環境保全団体に役立ててもらおう取り組みもしている。

事業への参画は2014年春から。東近江市栗見出在家町地区と協力し、端材のうち塩パイプは生きものの住み家として水路に置いた。既にメダカの越冬やカエルの産卵などが確認されているという。また、合成木材は腐敗しない特製を生かして、琵琶湖の魚が水田に遡上するための魚道や水路を守るための「土止板」などに使っている。

工場の藤本浩司・環境エネルギー係長は「活動が評価されたい。受賞をきっかけに多くの人に知ってもらい、更に輪が広がってほしい」と話している。

田んぼや排水田オーナーにもなっている。